

機関番号：12604

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2010

課題番号：19520074

研究課題名（和文）イブン・スィーナー『治癒の書』に関する比較思想史的研究

研究課題名（英文）A Comparative Study of Ibn Sina's *Kitab al-Shifa'*

研究代表者

小林 春夫 (KOBAYASHI HARUO)

東京学芸大学・教育学部・教授

研究者番号：70242229

研究成果の概要（和文）：イスラームを代表する哲学者イブン・スィーナー（Ibn Sina=Avicenna, 1037年没）の思想の全体的解明に向けて、第一に、彼の主著である『治癒の書』（*al-Shifa'*）形而上学部分を様々な刊本・写本に基づいて精読し、邦訳と注釈を作成した。第2に、ギリシア哲学、シリア語圏の思想、中国思想の専門家とともに同書の成立過程を明らかにするとともに、その思想の後世への影響について多面的に解明した。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to clarify the philosophy of Ibn Sina, who is one of the most important thinkers in the Islamic world. For this purpose, first we devoted our effort into the textual investigations of the metaphysical part of his master piece, *Kitab al-Shifa'* with its editions as well as Arabic manuscripts; and published an annotated Japanese translation of its introductory chapters. Second, we -- as a team which consists of the specialists of Islamic philosophy, Greek philosophy, Syriac philosophy, and Chinese philosophy -- clarified the philosophical background of this work and its influences on the later world.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	900,000	270,000	1,170,000
2008年度	800,000	240,000	1,040,000
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
2010年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：イスラーム哲学

科研費の分科・細目：哲学・思想史

キーワード：(1) イブン・スィーナー (2) イスラーム哲学 (3) 治癒の書 (4) ギリシア哲学 (5) バル・ヘブラエウス (6) ファーラービー (7) 回儒 (8) 形而上学

1. 研究開始当初の背景

イスラーム世界が古代ギリシア思想を受容し発展させ、それを中世キリスト教世界に伝えた功績は国内外の学界において広く認められているところである。わが国でも、特定領域研究「古典学の再構築」（平成10年度～平成14年度）では諸文明を横断する古典研究が

試みられ、筆者（＝研究代表者）は「イスラーム哲学におけるアリストテレス『デ・アニマ』受容と靈魂論の展開」のテーマで公募研究（平成11年度～平成14年度）に参加した。また2003年には、中世哲学会の主催により「存在と知性—イスラームから西洋へ」と題するシンポジウム（2003年10月26日、新潟大学）

が開催され、イスラーム側の提題者としてギリシア哲学および中世哲学の専門家と様々な意見交換を行なった。さらに、イスラーム哲学の影響はシリア語圏や中国語圏にも及んでおり、具体的な文献に基づく通文化的な研究が必要であることが、研究交流の中から明らかになってきた。このような様々な機会を通じて、イスラーム哲学を比較思想史的に研究することの意義と重要性を痛感し、本研究を着想するに至った。

2. 研究の目的

上述の背景を踏まえて、わが国におけるイスラーム研究の現状を鑑みるに、ギリシア哲学あるいは中世哲学の専門家との共同研究を進めるために不可欠な基礎研究が決定的に不足しており、とりわけアラビア語原典からの良質な邦訳と解説の充実を急ぐ必要があることが明らかである。たとえば、『中世思想原典集成11－イスラーム哲学』（上智大学中世思想研究所監修、2000年）はほとんど唯一の原典資料集であるが、これには膨大なイスラーム哲学文献の中の僅かに10本の短編ないし部分訳が収められているにすぎない。このような欠を補うために、本研究ではイスラーム哲学・科学の代表者の一人であるイブン・スィーナーに着目し、彼の主著である『治癒の書』の研究と翻訳を目的とした。

3. 研究の方法

本研究は、この科学研究費を申請する以前から継続中の『治癒の書』研究会を母体として企画されたものであり、問題の所在や共同研究の方法などについては、メンバーの間に既に一定の理解が成立していた。それを列挙すれば以下の通りである。

(1) イブン・スィーナー『治癒の書』形而上学部分（刊本にして2冊）の研究と翻訳を研究の主体とする。これには諸種の刊本及び写本を用いたアラビア語テキストの確定、同書に対するモッラー・サドラー及びナラーギーの古註釈書の比較、中世ラテン語訳及び現代語訳（アナワティーの仏訳とマルムラの英訳など）との比較、関連する先行研究の検討、邦訳と訳注の作成を含める。

(2) 同書に関係する文献調査と資料収集を行う。これには、国内外の図書館における関連文献の調査とともに写本マイクロフィルムや図書資料の収集等を含める。

(3) 同書に関係する比較思想史的解明を進める。これには、同書に対する古代ギリシア

哲学（とりわけアリストテレスと新プラトン主義）の影響、同書と神学や神秘主義等のイスラーム思想との関連性、イブン・スィーナー以降のイスラーム哲学に対する影響、他の文化圏（特にラテン語圏とシリア語圏）における同書の受容と影響などの解明を含める。

(4) 上記の研究会には研究代表者および分担者として記載した者の他に数名の大学院生も参加していたが、本研究を遂行するにあたっては積極的に若手研究者に参加を呼び掛け、その育成に努める。

4. 研究成果

(1) 本研究期間を通じ平均して月1回の定例研究会を開催した。その間に、イブン・スィーナー著『治癒の書』（形而上学部分）のアラビア語原典を精読し、訳注を作成した。具体的には、3種の刊本（カイロ版、マルムラ版、イスファハーニー版）を基に、ムッラー・サドラーおよびナラーギーのアラビア語注釈、ラテン語訳、英訳（マルムラ）、仏訳（アナワティー）を参照しつつ精読した。そしてその成果を学術雑誌に発表した（主な発表論文等のうちの雑誌論文：小林春夫、仁子寿晴、加藤瑞絵、倉澤理 2011）。

(2) イブン・スィーナーの思想全体における『治癒の書』の位置とその成立過程とを明らかにした（主な発表論文等のうちの雑誌論文：小林春夫2010、2011）。

(3) ギリシア・ラテン思想とイブン・スィーナーの思想との影響関係を明らかにした（主な発表論文等のうちの学会発表：堀江聡 2008など）。

(4) シリア思想、とりわけバル・ヘブライウスとイブン・スィーナーの思想との関係を明らかにした（主な発表論文等のうちの雑誌論文：高橋英海2011など）。また、ギリシアからアラブへの学知の伝承を明らかにした（主な発表論文等のうちの雑誌論文：高橋英海 2009）。

(5) ファーラービーおよび回儒思想とイブン・スィーナーの思想との影響関係を明らかにした（主な発表論文等のうちの論文：仁子寿晴2009および学会発表：仁子寿晴2010）。また、イブン・スィーナー『治癒の書』における形而上学の構造を明らかにした（主な発表論文等のうちの雑誌論文：仁子寿晴2011）。

(6) 本研究の成果のとりまとめとして、シンポジウム「イブン・スィーナー『治癒の書』を巡る比較思想史」を開催し、同書の成立過程、構造、影響などについて多面的に検討した（主な発表論文等のうちの学会発表：小林、仁子、高橋2010）。

(7) 本研究の成果を基とし、さらに関連する諸分野の研究者とも連携して、論文集『イスラームにおける知の構造と変容—思想史・科学史・社会史的視点から』（主な発表論文等のうちの図書2011）を刊行した。

以上の研究成果の意義としては、第1に、本研究の主目的である『治癒の書』原典の精読を着実に進めえたこと、第2に、同書の翻訳・訳注・語彙索引を発表しえたこと、第3に、研究代表者と分担者がそれぞれの専門領域において関連研究をおこない、最新の研究動向を相互に確認しえたこと、第4に、これまでの研究成果を論文・シンポジウム・図書などのかたちで公開し、他分野の研究者との交流を促進しえたことが挙げられる。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

[雑誌論文]（計8件）

- ① 小林 春夫、イブン・スィーナー『治癒の書』の成立をめぐる、小林春夫、阿久津正幸、仁子寿晴、野元晋編『イスラームにおける知の構造と変容—思想史・科学史・社会史的視点から』、査読無、2011、77-91頁
- ② 仁子 寿晴、イブン・スィーナー『治癒の書』形而上学の構造、小林春夫、阿久津正幸、仁子寿晴、野元晋編『イスラームにおける知の構造と変容—思想史・科学史・社会史的視点から』、査読無、2011、93-111頁
- ③ 高橋 英海、シリア語における『治癒の書』の受容、小林春夫、阿久津正幸、仁子寿晴、野元晋編『イスラームにおける知の構造と変容—思想史・科学史・社会史的視点から』、査読無、2011、113-133頁
- ④ 小林 春夫、仁子 寿晴、加藤瑞絵、倉澤理、イブン・スィーナー著『治癒』形

而上学訳註（第一巻第一章および第二章）、査読無、イスラーム地域研究ジャーナル、査読無、Vol. 3、2011、73-117頁

- ⑤ 小林 春夫、イブン・スィーナー著『治癒』文献解題、イスラーム地域研究ジャーナル、査読無、Vol. 2、2010、57-63頁
- ⑥ Hidemi Takahashi, Between Greek and Arabic: The Sciences in Syriac from Severus Sebokht to Barhebraeus, Haruo Kobayashi & Mizue Kato (edd.), *Transmission of Sciences: Greek, Syriac, Arabic and Latin*, Tokyo: Organization for Islamic Area Studies, Waseda University (WIAS), 2010, 16-39 頁
- ⑦ 高橋 英海、アレクサンドリアからバグダードへ—学知の経由地とイスラーム世界での学知の受容におけるその影響、中世思想研究、査読無、51 巻、2009、132-142 頁
- ⑧ 仁子 寿晴、中国思想とイスラーム思想の境界線——劉智の「有」論、アジア遊学「中国のイスラーム思想と文化」、査読無、129 巻、2009、61-79 頁

[学会発表]（計9件）

- ① 小林 春夫、イブン・スィーナー『治癒の書』の成立を巡って、ワークショップ：イブン・スィーナー『治癒の書』を巡る比較思想史、2010年11月20日、早稲田大学（東京都）
- ② 高橋 英海、シリア語における『治癒の書』の受容：バル・ヘブラエウス『英知の精華』形而上学編の構造、ワークショップ：イブン・スィーナー『治癒の書』を巡る比較思想史、2010年11月20日、早稲田大学（東京都）
- ③ 仁子 寿晴、イブン・スィーナー『治癒』形而上学—概念の把握と学問構造、ワークショップ：イブン・スィーナー『治癒の書』を巡る比較思想史、2010年11月20日、早稲田大学（東京都）
- ④ Toshiharu Nigo, Discussion, New Horizons in Islamic Area Studies: Continuity, Contestations and the Future, 2010年12月19

日, Kyoto International Conference Center,
Japan (京都府)

- ⑤ Hidemi Takahashi, *Between Greek and Arabic: The Sciences in Syriac from Severus Sebokht to Barhebraeus*, チャールズ・バーネット教授特別ワークショップ「科学的知の伝承～ギリシャ/シリア/アラブ/ラテン～」2009、早稲田大学文学部 (東京都)
- ⑥ Haruo Kobayashi, *Self-Consciousness in Suhrawardi's Philosophy, International Symposium on Islam, Science and Civilization, 2009, Kyoto University* (京都府)
- ⑦ Toshiharu Nigo, *The Structure of Metaphysics: From al-Farabi to Ibn Sina, International Symposium on Islam, Science and Civilization, 2009, Kyoto University* (京都府)
- ⑧ 仁子 寿晴, 初期イスラーム哲学における二つの形而上学——哲学構築と発出論の論理構成——、東洋史研究大会、2009、京都大学 (京都府)
- ⑨ 堀江 聡, アラビア哲学に於ける新プラトン主義的神秘主義のメタモルフォーシス—9世紀バグダードの改作『偽アリストテレスの神学』、長大版・同『神学』、イブン・スィーナ『治癒の書』、スフラワルディー『照明哲学』との比較、東洋哲学研究所 2008年度下半期定例会、2008 (東京都)

[図書] (計2件)

- ① 小林春夫、阿久津正幸、仁子寿晴、野元晋編、早稲田大学イスラーム地域研究機構、イスラームにおける知の構造と変容—思想史・科学史・社会史的視点から、2011、390
- ② 小林春夫、加藤瑞絵 (編)、早稲田大学イスラーム地域研究機構、*Transmission of Sciences: Greek, Syriac, Arabic and Latin*、2010、62

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小林 春夫 (KOBAYASHI HARUO)
東京学芸大学・教育学部・教授
研究者番号：70242229

(2) 研究分担者

堀江 聡 (HORIE SATOSHI)
慶応義塾大学・文学部・教授
研究者番号：40238788

高橋 英海 (TAKAHASHI HIDEMI)
東京大学・総合文化研究科・准教授
研究者番号：20349228

仁子 寿晴 (NIGO TOSHIHARU)
京都大学大学院・アジアアフリカ地域研究
研究科・客員准教授
研究者番号：10376519